

# 静岡県下におけるハマボウの分布 -数十年間の変化と現状-

Distribution of *Hibiscus Hamabo* Siebold et Zucc. in Shizuoka Prefecture  
- Current Status and Changes of the Habitats over the Past Decades -

榎本優吾<sup>1</sup>、白松知紀<sup>2</sup>、一木利行<sup>3</sup>、竹村悠太<sup>4</sup>、  
鬼澤陽人<sup>5</sup>、浅見佳世<sup>6</sup>

ENOMOTO Yugo, SHIRAMATSU Tomoki, IKKI Toshiyuki,  
TAKEMURA Yuta, KIZAWA Akito, ASAMI Kayo

## 1. はじめに

干潟は日本全国で減少しており、1945年に82,621haあった干潟の面積は、1996年には49,380haにまで減少している（花輪2006）。また干潟という特殊な立地の減少に伴い、干潟を生育場所とする塩生湿地植物の大半の種が絶滅の危機に瀕しており、レッドデータブックに記載されている種が多い状況である（澤田ほか2006）。沿岸部の河口や入り江の干潟に生育するハマボウ *Hibiscus hamabo* Siebold et Zucc. も例外ではない。

ハマボウは干潟に特有なアオイ科の落葉低木で、夏季にはハイビスカスのような黄色い花を咲かせる植物である。分布は現在、鹿児島県奄美大島を南限とし（鈴木ほか2022）、太平洋側で神奈川県が多摩川河口（河津2004）、日本海側で島根県隠岐諸島（しまねレッドデータブック <http://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/rdb/rdb2/cnt/s56b.html>, 2023.9 参照）が北限とされており、生育が確認されている地域のほぼすべての府県においてレッドデータブックに記載されている。一方、レッドデータブックに記載されていないのは2県のみで、静岡県はその内の一つである。静岡県は中西（2001）により絶滅した県に次いで分布地の減少率が高い県に挙げられているが、ハマボウの分布地に関する近年の報告はない。そこで本研究では文献調査により過去に報告されている県内の分布地について整理するとともに、現地調査により現在の県内の分布および生育立地を把握し、ハマボウの保全について検討した。

- 
1. 常葉大学社会環境学部（現所属：エスペックミック株式会社）
  2. 常葉大学社会環境学部（現所属：一般財団法人静岡県生活科学検査センター）
  3. 常葉大学社会環境学部（前所属：常葉大学社会環境学部）
  4. 常葉大学社会環境学部（現所属：株式会社エストラスト）
  5. 常葉大学社会環境学部（前所属：常葉大学社会環境学部）
  6. 常葉大学大学院環境防災研究科

## II. 方法

文献調査では、1892年から1980年代に書かれた文献（表1）を中心に分布地や生育状況について整理した。全国のハマボウの生育地や個体数をまとめた文献⑪は2001年発行であり、記述されている分布地の多くは文献①～⑩の文献を引用したものであるが、新たな知見も記述されていたため文献調査の対象とした。ハマボウの分布地が古い字名での記載であったり、地形の改変などにより現在の分布地が不明な場合は、国土地理院の過去の地形図をもとにハマボウが生育していたと思われる場所を推定し、現在の地名で整理した。

表1. 調査対象とした文献一覧

文献番号	発行年	著者	冊子名・論文名
①	1892	小笠原利孝	静岡縣ノはまぼう
②	1962	杉本順一	伊豆の植物
③	1967	静岡県生物研究会	静岡県植物誌
④	1968	浜松植物研究会	浜松の植物
⑤	1969	杉野孝雄	御前崎の植物
⑥	1971	文化庁	天然記念物緊急調査植生図・主要動植物地図,22静岡県
⑦	1981	近田文弘	静岡県の植物群落
⑧	1983	杉野孝雄	駿遠植物調査資料No.18
⑨	1984	杉本順一	静岡県植物誌
⑩	1985	佐藤孝敏	静岡県の自然環境
⑪	2001	中西弘樹	ハマボウの地域別個体数と生育状況

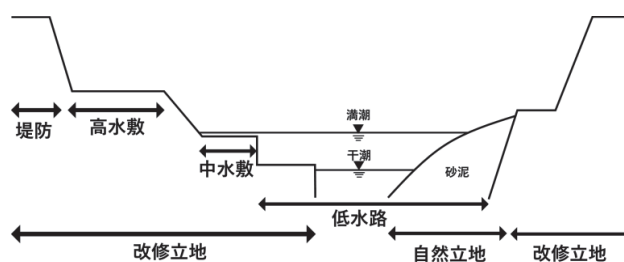


図1. 河川断面における各部の名称

現地調査では静岡県下の沿岸部のうち、既往文献に記載されていた地点やインターネットにて生育が報告されている地点に加えて、それぞれの周辺域や往復の途上にある河口や内湾などを確認した。調査では分布範囲と植分ごとの自生・植栽別の個体数および生育立地を調べた。必要に応じてヒアリング調査もおこなった。調査は2020年11月から2023年7月にかけて行った。生育立地については2タイプに分類して記録した。1つは自然地形の干潟や護岸の前面に堆積した砂泥地など、生育基盤が人工物ではない立地である（以後、「自然立地」とする）。もう一つは河川改修等により整備された中水敷や高水敷などの「改修立地」である。本論文では、改修立地のうち堤外側については、満潮時にも冠水することのない整備された土地を「高水敷」、満潮時に冠水するが干潮時には干出する高さにある平らな場所を「中水敷」と呼ぶ。

## III. 結果

文献調査の結果、静岡県下ではハマボウは23地点で記録されており、かつては駿河湾の最奥部と伊豆半島の東岸を除く、沿岸部全域に広がっていたことが明らかとなった（図2，付録2）。しかし、1960

年代に三保の大群落の絶滅が記録されたのを始めとして、1980年代には御前崎を中心にさらに7地点で絶滅が記録されるなど、1980年代後半には生育が報告されている分布地の数は15地点に減少していた。

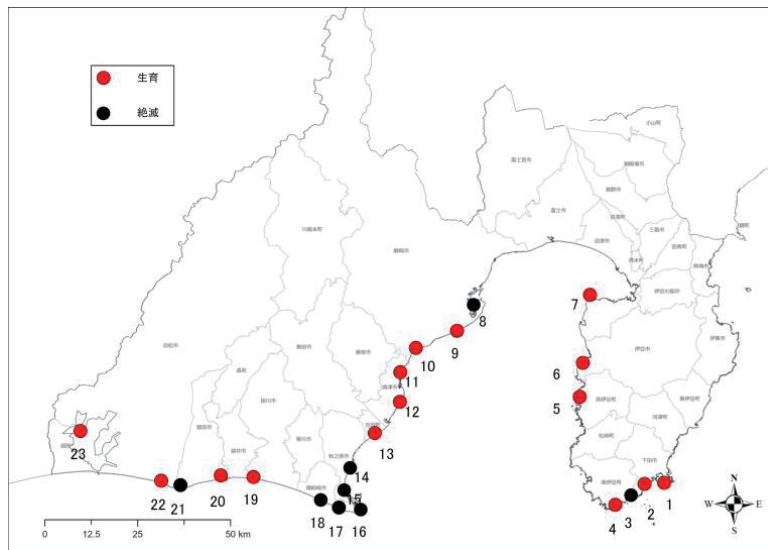


図 2. 過去のハマボウの分布地

図中の数字は表 2 の地点番号である。

●は1980年代時点での絶滅を示す。

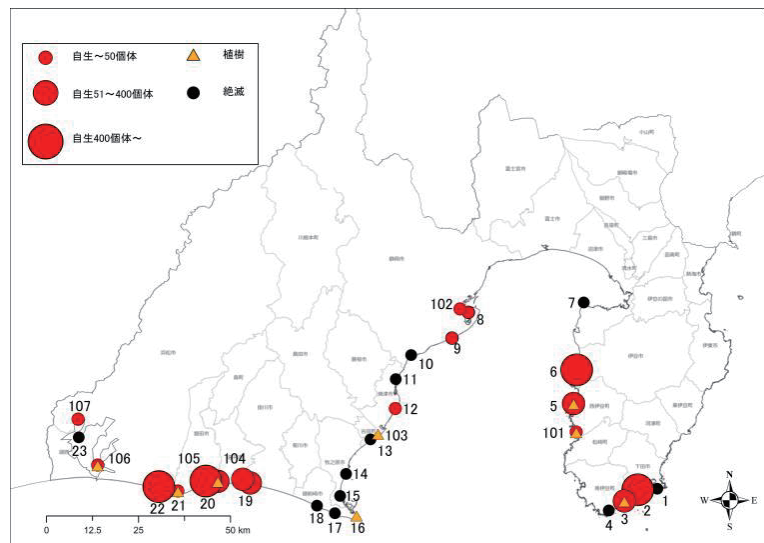


図 3. 現在のハマボウの分布地

図中の数字は表 2 の地点番号で、1, 2 桁は既往文献に記載されている地点、3 桁は今回の調査で新たに見つかった分布地を示す。

現地調査の結果、ハマボウの分布地は御前崎周辺から駿河湾にかけて絶滅が進み、個体数の多い分布地は伊豆半島（南部～西岸）と浜名湖から御前崎の一部に限られていた（図 3）。分布地数は19地点（表 2）であり、1980年代後半に生育が報告されていた分布地数よりも多かった。1980年代から継続して生育が記録されている分布地は8地点あり、さらに4地点（地点番号：3, 8, 16, 21）では一度絶滅したもの本調査で生育が確認できた。この4地点は河川改修や護岸整備により元々の生育地とは異

なっており、2 地点（地点番号：16, 21）は満潮時に冠水することのない陸域に整備された公園となっていた。新たに確認したのは7 地点（地点番号：101～107）で、生育立地のほとんどは冠水することのない公園や、護岸の隙間といった改修立地だった。なお、地点105（彷徨川）は、中西（2010）には記載されているが、2001年までの文献では記載されていなかったため、今回の調査では新地点とした。また付録2 には掲載していないが、三保半島（地点番号：8）の内湾（折戸湾）の埋立地に成立する小さな礫干潟に12個体のハマボウを確認し、三保半島の突端の海辺でも1 個体を確認した。久能（地点番号：9）では、久能山東照宮の参道入り口（標高約25m）に2 個体のハマボウを確認した。

表2. 県内のハマボウの分布状況

地点番号	分布地	文献調査	現地調査	自生個体数	植樹個体数	生育場地の立地 <sup>1)</sup>
1	下田市赤崎	生育	絶滅	-	-	-
2	下田市大賀茂川	生育	生育	900~	-	自然>改修
3	下田市青野川	絶滅	生育	88	50	改修(公園が主体)
4	南伊豆町南崎	生育	絶滅	-	-	-
5	西伊豆町安良里	生育	生育	60	32	自然>改修
6	伊豆市八木沢	生育	生育	426	-	自然≒改修(コンクリート)
7	沼津市大瀬崎	生育	絶滅	-	-	-
8	静岡市清水区三保	絶滅	生育	13	-	自然
9	静岡市駿河区久能	生育	生育	2	-	改修(参道脇)
10	静岡市駿河区用宗	生育	絶滅	-	-	-
11	焼津市焼津	生育	絶滅	-	-	-
12	焼津市田尻	生育	生育	10	-	改修(コンクリート)
13	吉田町榛原	生育	絶滅	-	-	-
14	牧之原市相良	絶滅	絶滅	-	-	-
15	牧之原市地頭方	絶滅	絶滅	-	-	-
16	御前崎市御前崎	絶滅	生育	-	400	改修(高水敷の公園のみ)
17	御前崎市白羽	絶滅	絶滅	-	-	-
18	御前崎市浜岡	絶滅	絶滅	-	-	-
19	掛川市弁財天川	生育	生育	237	-	自然<改修(干潟を伴う中水敷)
20	磐田市太田川	生育	生育	138	101	自然<改修(公園が主体)
21	磐田市竜洋	絶滅	生育	17	264	改修(公園が主体)
22	浜松市馬込川	生育	生育	600~	-	自然
23	浜松市礫島	生育	絶滅	-	-	-
101	西伊豆町仁科	-	生育	4	30	改修(公園が主体)
102	静岡市清水区巴川	-	生育	8	-	改修(コンクリート)
103	吉田町吉田公園	-	生育	-	18	改修(公園のみ)
104	袋井市前川	-	生育	264	-	改修(コンクリート)
105	磐田市彷徨川	-	生育	1000~	-	改修(干潟を伴う中水敷)
106	浜松市西区村櫛町周辺	-	生育	16	103	自然<改修(公園が主体)
107	浜松市北区三ヶ日町周辺	-	生育	15	-	自然≒改修

1) 不等号,等号は各立地における個体数の多少を示す。

生育立地に着目すると、分布地のうち自然立地は9 地点であり、中でも3 地点（地点番号：2, 19, 22）は自然裸地の干潟からヨシ群落、ハマボウ群落に至る植生配列が見られる良好な立地であった。すでに市の天然記念物に指定されている地点2（大賀茂川）の他に、地点19（弁財天川）には多様な塩生湿地群落が成立しており、干潟の面積は県内最大級で干潟に特有な底生生物も多く見られた。地点22（馬込川）は県内でも数少ない連続した立地を有していて、ヨシ群落とハマボウ群落が広く成立していた。ほかの自然立地の分布地（地点番号：5, 6, 8, 20, 106, 107）は上述した3 地点よりも面積が狭く、改修された立地の前面に砂泥が堆積したような立地であった。大半の分布地は改修立地を含んでおり、満潮時に冠水するような高さにある護岸の隙間や護岸の上に堆積した砂泥の立地であった。多く

はわずかな面積しか有していないが、弁財天川の右岸側と彷徨川では改修時に設けられた中水敷にハマボウ群落形成され、特に彷徨川では広大なハマボウ群落が成立していた。改修立地の中でも表2において「公園」と示した地点は満潮時にも冠水することのない陸域であり、本来の生育立地とは異なる環境であった。

#### IV. 考察

南西諸島を除く日本列島の塩生湿地では本来、干潟の前線から後背地側にかけて、1年草群落、多年草群落、低木林、陸域の森林群落へと移行する植生配列が成立する(大場1980, 上田ほか2014)。微細な立地条件の差異に応じて成立する多様な植生は、干潟に特有な底生動物の多様さも指標し(川井田・木村2022)、干潟から連続するこれらの植生を自然裸地の干潟と共に保全することは、種多様性の保全のみならず生態系機能の保全にも役立つ(中西2003)。

県内では大賀茂川、弁財天川左岸側、馬込川の3地点において、干潟から多年草群落を経て低木のハマボウ群落や個体群へと連続する植生配列が認められた。一連の植生配列を持つ干潟は県内でも希少であり、これら3地点については保全が強く望まれる。既に大賀茂川は市の天然記念物に指定されているほか、弁財天川は県立自然公園の第2種特別地域に指定されていてハマボウは捕獲・採取が規制される動植物に指定されている。馬込川も市立公園内に位置しているなど、いずれの地点においても無制限に開発が行われる心配は少ない。しかし、弁財天川と馬込川は県下でも希少な干潟であるにもかかわらず、干潟や塩生湿地の存在が地域において十分に認知・保全されているとはいえない。地域を代表する貴重な自然資源であるとの認知の拡大に努めると共に、干潟一帯を天然記念物に指定するなど、保全への取り組みが望まれる。

ハマボウの生育立地は河川改修や護岸工事により消失すると言われており(日本自然保護協会1996, 中西2010)、県下でも絶滅地の大半はこれらの影響を受けて消失していた。一方で改修立地の中には彷徨川や弁財天川のように、改修時に設けられた中水敷が満潮時に冠水する高さに設定された結果、中水敷上に堆積した泥が干潟となり新たにハマボウの生育地が創出されている例もあった。このことは、河川改修をしてもハマボウが生育できる立地の再生が可能であることを示唆している。生育立地の復元には満潮時には冠水し、砂泥が堆積できる立地を作る配慮が必要と考えられる。このような微妙な高さの立地を再現するためには、河川管理者が設計に反映することのできる指標を用いて地盤高を定量的に算出しておくことが望ましい。なお両河川とも、中水敷と流路部分との境界は垂直な護岸によって立地が不連続になっていた。今後は中西(2010)が指摘するように植生帯から流路にかけて連続的に変化する立地を創出するための工夫が望まれる。

県下の分布地の大半は改修立地を含んでいて、多くはコンクリートの隙間や低水護岸の水際など、ハマボウはわずかな隙間に生育しているに過ぎなかった。しかし、例えば今回、生育を再確認できた三保の分布地は、巴川のコンクリート護岸の隙間に点々と生育するハマボウ個体から供給された種子が、新たな生育地に漂着して定着したものと考えられる。ハマボウは全国的に地域個体群の分化が進んでいるとされており(中西2010)、わずかな立地であっても生育場所を確保することができれば、郷土のハマボウ個体群の保全に貢献する可能性がある。



## V. 謝辞

本研究は令和3年度とこは未来塾-TU can Projectより助成をいただきました。本研究を進めるにあたり、静岡県河川企画課 岩崎裕貴様、静岡県袋井土木事務所 維持管理課の辻村滋様、下田市教育委員会の谷口輝様、西伊豆町まちづくり課、磐田市役所建設部都市整備課の皆様には多くの情報を提供して頂きました。また本研究室の学生には現地調査を補助していただきました。皆様に感謝すると共にお礼申し上げます。

## VI. 引用文献

- ・文化庁 1971. 天然記念物緊急調査植生図・主要動植物地図22静岡県. (財)国土地理協会.東京 .
- ・浜松植物同好会 1968. 浜松の植物. 浜松植物同好会, 浜松.
- ・花輪伸一 2006. 日本の干潟の現状と未来. 地球環究, 11 (2) : 235-244.
- ・河津英子 2004. 北限のハマボウ. FLORA KANAGAWA, 57:708.
- ・川井田俊・木村妙子 2022. 三重県田中川干潟における絶滅危惧種トビハゼおよびキセルハゼの採集記録. Laguna, 29: 1-7.
- ・近田文弘 1981. 静岡県の植物群落. 第一法規, 東京.
- ・中西弘樹 2001. ハマボウの地域別個体数と生育状況. 奥田重俊先生退官記念論文集「沖積地植生の研究」(奥田重俊先生退官記念会編), 37-46. 奥田重俊先生退官記念会, 横浜.
- ・中西弘樹 2003. 河口域の植生-ハマボウ群落を中心として. 日本河川協会, 59 (3) : 27-32.
- ・中西弘樹 2010. ハマボウの保全の歴史と現状. 保全生態学研究, 15: 153-158.
- ・日本自然保護協会 1996. 植物群落レッドデータ・ブック. アブック社出版局.
- ・小笠原利孝 1892. 静岡縣ノはまぼう. 植物学雑誌, 6 (64) : 250.
- ・大場達之 1980. 日本の海岸植生類型 4-塩沼海岸の植物群落 (3). 海洋と生物, 7: 107-109.
- ・佐藤孝敏 1985. 15) ハマボウ (アオイ科). 「静岡県の自然環境」(静岡県生活環境部自然保護編), 67. 静岡県生活環境部自然保護, 静岡県 .
- ・澤田佳宏・服部保・内田圭 2006. 国版及び地方版レッドデータブックからみた日本の海岸植物の絶滅危惧の現状-本州・四国・九州における状況. 環境情報科学論文集 20: 71-76.
- ・静岡県生物研究会 1967. 静岡県植物誌, 静岡.
- ・杉本順一 1962. 伊豆の植物. 東京緑友会, 東京.
- ・杉本順一 1984. 静岡県植物誌. 第一法出版, 東京.
- ・杉野孝雄 1969. 御前崎の植物. 採集と飼育, 31: 170-175.
- ・杉野孝雄 1983. 駿遠植物調査資料No.18, 遠州の自然, 6: 61-64.
- ・鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 2022. 鹿児島県の維管束植物分布図集 -奄美群島版-, 鹿児島県大学総合研究博物館研究報告 No.18: 1-252.
- ・上田萌子・服部保・澤田佳宏・上甫木昭春 2014. 暖温帯における塩沼地低木林とその後背地の自然林に関する研究. ランドスケープ研究, 77 (5) : 587-592.

付録 1. 県内の分布地の状況

(その 1)

地点 2. 下田市大賀茂川

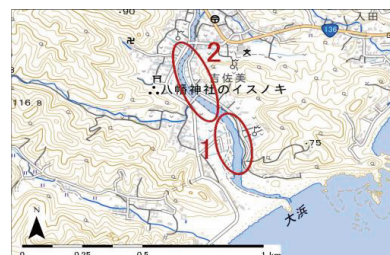
■分布地：下田市吉佐美

■確認個体数

自生個体：約900      植栽個体：0

■概要

- ・大賀茂川のハマボウ群落は、1969年に「はまぼう樹林」として下田市の天然記念物に指定されている。
- ・静岡県下田土木事務所により、天然記念物のハマボウ群落を見るための木道「はまぼうロード」が設置されている。
- ・生育立地は自然立地と改修立地の2タイプに分けられる。
- ・自然立地のハマボウは、はまぼうブリッジから浜條橋付近の区間(1)に生育している。ここではハマボウ群落がヨシ群落の背後に成立し、大群落を形成している。実生も多く生育していた。
- ・改修立地のハマボウは、浜條橋付近から朝日橋までの区間(2)に生育している。
- ・自生個体の数は県内でも最も多い分布地のひとつである。



両岸の自然立地に広がる  
ハマボウ群落とヨシ群落

地点 3. 下田市青野川

■分布地：賀茂郡南伊豆町湊

■確認個体数

自生個体：88      植栽個体：50  
(2)も含む。      (3)のみ。

■概要

- ・青野川野ハマボウはかつて河川改修時の全滅を避けて、一部が移植された経緯を持つ。
- ・自生個体は根固めの袋型の蛇籠や河川の法面に生育している。また、泥干潟に植栽されたメヒルギの背後(2)にも生育している。この泥干潟は改修立地であり、河流の浸食を防ぐために蛇籠で囲った内部に客土して作られた立地である。ここに生育しているハマボウは移植された個体であるが、自然状態に近い立地に生育していたため、自生個体として数えた。
- ・植栽個体は「ハマボウ公園（下田市）」に生育している(3)。「ハマボウ公園」は堤防に接した堤内側に設けられており、満潮時にも冠水しない立地である。



改修立地に生育する  
ハマボウとメヒルギ

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。

付録 1. 県内の分布地の状況

(その 2)

地点 5. 西伊豆町安良里

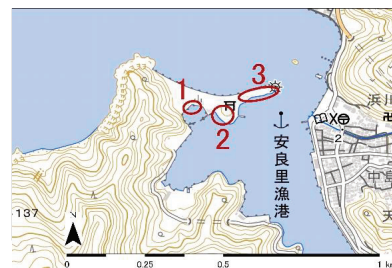
■分布地：賀茂郡西伊豆町安良里網屋岬

■確認個体数

自生個体：60      植栽個体：32

■概要

- ・ハマボウの分布地は安良里網屋岬にあり、自生個体と植栽個体とが生育している。
- ・自生個体は港の背後の礫原(1)や内湾に面した礫浜(2)に生育している。また、生育している場所は潮位がかなり上昇する大潮の時に浸かることが、聞き取りによって明らかになった。
- ・植栽個体は安良里灯台に近い砂礫原(3)に、静岡大学と地元住民によって60個体ほどが植栽された。現地での確認個体数が植栽された個体数より少なかったのは、植栽されたハマボウが波により流されてしまっていることが聞き取りによって明らかになった。



礫浜に生育する  
自生個体のハマボウ(1)

地点 6. 伊豆市八木沢

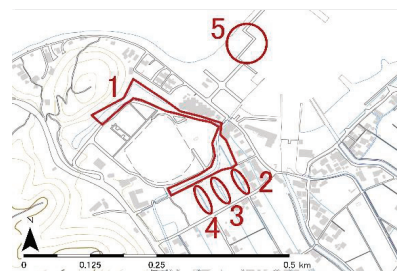
■分布地：伊豆市八木沢丸山スポーツ公園周辺

■確認個体数

自生個体：426      植栽個体：0

■概要

- ・「丸山スポーツ公園（伊豆市）」付近を流れる水路や八木沢港の埋立地に生育している。
- ・聞き取りによるとこれらのハマボウは自生個体である
- ・公園を囲むように流れている水路(1)内の泥の堆積地や、集落内を流れる水路（2，3，4）にまとまって生育している。
- ・埋立地では砂礫質の裸地部(5)に生育している。
- ・分布範囲は広くはないが、約400個体と多くのハマボウがまとまって生育しているほか、集落内を縦横に流れる土羽でできた小さな水路に生育している。
- ・ハマボウが生活空間に溶け込んだ景観となっている。



水路内の泥の堆積地に  
生育するハマボウ

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。



付録 1. 県内の分布地の状況

(その 3)

地点12. 焼津市田尻

■分布地：栃山川河口付近

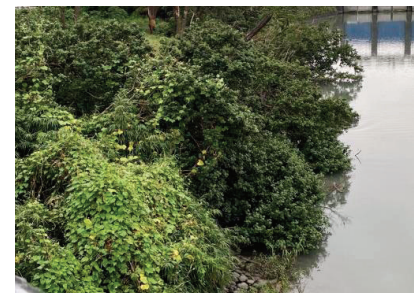
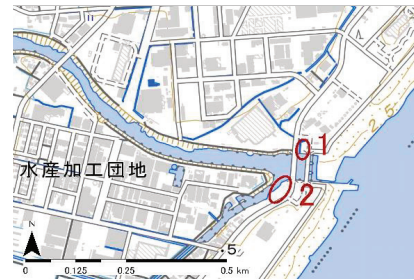
■確認個体数

自生個体：10

植栽個体：0

■概要

- ・分布地は栃山川の河口付近であり、個体数は少ないがすべて自生個体である。
- ・栃山川と成案寺川の合流部付近(2)や栃山川に流れる水路(1)の、中水敷とコンクリート法面の隙間に生育している。
- ・コンクリートの隙間など人工的な立地でも、力強く生育しているハマボウを見ることができる生育地である。



河川の法面に生育するハマボウ

地点16. 御前崎市御前崎

■分布地：御前崎市マリパーク御前崎

■確認個体数

自生個体：0

植栽個体：400

■概要

- ・「マリパーク御前崎（御前崎市）」内の「港の見える丘」(1)に生育している。
- ・この立地は盛土により作られた丘であり、満潮時にも冠水することはない。
- ・ハマボウはすべて地元の小学校の卒業記念として植栽されたものである。



「港の見える丘」に  
植栽されたハマボウ

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。

付録 1. 県内の分布地の状況

(その 4)

地点19. 掛川市弁財天川

■分布地：掛川市西大渚、沖之須および袋井市中新田

■確認個体数

自生個体：237      植栽個体：0

■概要

- ・河口から弁財天川橋付近にかけて生育している。
- ・生育立地は、左岸側の河口から今沢橋にかけて広がる自然立地と、右岸側を中心とする改修立地（中水敷）の2つのタイプに分けられる。自然立地では、長さ500m、幅80m程の広大なヨシ群落の背後に、アイアシ群落に混じって点々とハマボウが生育している。改修立地ではハマボウは幅1m程の中水敷に、列状に多くの個体が生育している。
- ・改修立地の一部区間では巾2,3mの根固めの沈床が設置されており、干潮時には、沈床の上に堆積した泥が干潟となり、ハマボウ群落の前面に広がる。
- ・アシハラガニなど、干潟に特有で多様な底生動物も数多く確認された。



●は、ハマボウ個体の分布地を示す。



干潟に帯状に生育するヨシ群落、アイアシ群落とハマボウ（手前）

地点20. 磐田市太田川

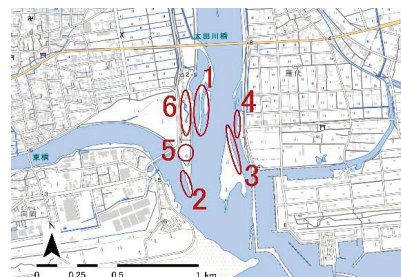
■分布地：磐田市福田および豊浜

■確認個体数

自生個体：138      植栽個体：101

■概要

- ・生育立地は自然立地と改修立地の2つのタイプに分けられる。
- ・自然立地のハマボウは中州（1，3）に点々と生育している。
- ・改修立地のハマボウは高水敷にある「はまぼう公園（磐田市）」（5，6）やコンクリート護岸と堤防の法面（2，4）に点々と生育している。
- ・公園の下流で合流する沓形川にはかつてハマボウの大群落があったが、沓形川水門の建設により消失した。「はまぼう公園」のハマボウは、水門建設の際に移植した個体群に由来する。
- ・中州には、汽水域に特有な底生動物が生息しているのを確認した。



公園に植栽されたハマボウ群落

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。

付録 1. 県内の分布地の状況

(その 5)

地点21. 磐田市竜洋

■分布地：磐田市駒場

■確認個体数

自生個体：17      植栽個体：264

■概要

- ・生育立地は「竜洋はまぼう公園（磐田市）」と、公園近くを流れる水路の中水敷の 2 タイプに分けられる。
- ・公園（1，2）には、多くのハマボウが植栽されており群落を形成している。天竜川と水路に挟まれた背割り堤上の公園ではあるが、満潮時にも冠水することはない。
- ・中水敷のハマボウはコンクリート護岸と堤防の法面の境界部(3)に生育している。碧水橋周辺に自生個体が点々と生育している。



公園に植栽されたハマボウ群落

地点22. 浜松市馬込川

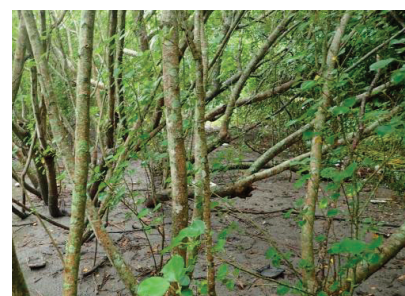
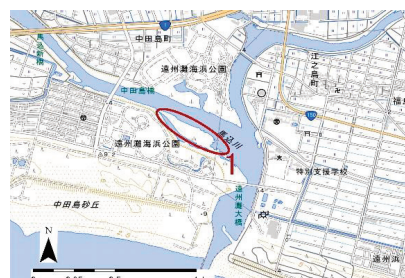
■分布地：浜松市南区中田島町

■確認個体数

自生個体：約600      植栽個体：0

■概要

- ・馬込川の遠州灘大橋から中田島橋の区間の右岸側には広大な泥干潟があり、幅100m、長さ500mほどの広大なヨシ群落が成立してる。ハマボウ群落はこのヨシ群落の后背(1)に成立している。
- ・静岡県下において広大なヨシ群落とハマボウ群落を有している数少ない分布地である。
- ・弁財天川と同様に、大潮の満潮時には冠水し、小潮の満潮時には冠水しない高さであることを確認している。
- ・ハマボウ成木の根元には多くの実生が生育していた。
- ・アシハラガニなど干潟に特有な底生動物も確認できた。
- ・対岸の芳川との合流部にもヨシ群落が広がるが、こちらではハマボウは確認できなかった。



泥干潟に形成されている  
ハマボウ群落

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。



付録 1. 県内の分布地の状況

(その 6)

地点101. 西伊豆町仁科

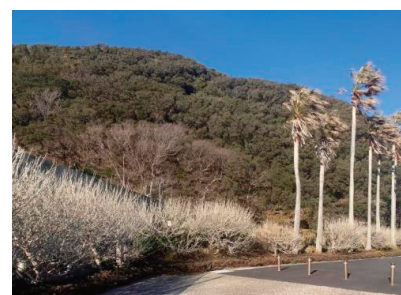
■分布地：西伊豆町仁科安城岬ふれあい公園付近

■確認個体数

自生個体： 4          植栽個体：30

■概要

- ・「安城岬ふれあい公園（西伊豆町）」内(1)や公園周辺(2)に生育している。
- ・植栽個体は公園内の道路脇や公園の駐車場など、満潮時でも冠水することのない場所に植栽されている。
- ・自生個体は公園の近くを流れている水路の中水敷に生育している。



駐車場に植栽されたハマボウ

地点102. 静岡市清水区巴川

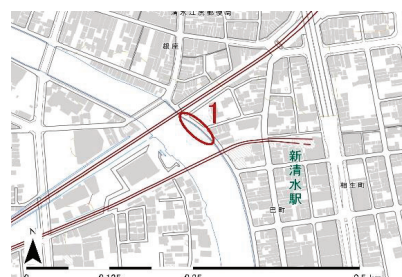
■分布地：静岡市清水区巴町

■確認個体数

自生個体： 8          植栽個体： 0

■概要

- ・私鉄橋梁とJR橋梁に挟まれた区間(1)に生育している。
- ・ハマボウはコンクリートの中水敷上の、泥やゴミが堆積した場所に列状に生育している。ヨシ群落などは見られなかった。
- ・コンクリート壁が高く、堤内側からはハマボウの伸びた枝しか見えず、ハマボウ全体を見るのは困難である。



中水敷に列状に生育するハマボウ

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。



付録 1. 県内の分布地の状況

（その 7）

地点103. 吉田町吉田公園

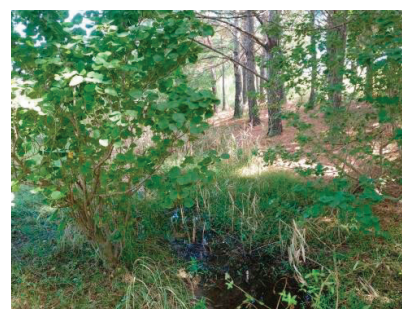
■分布地：榛原郡吉田町川尻

■確認個体数

自生個体：0      植栽個体：18

■概要

- ・「吉田公園（静岡県）」内を流れる自然な河川を再現した水路（1，2）の両岸に生育している。
- ・この水路は外海に面しておらず、現地での聞き取り調査から植栽個体であることが明らかになっている。
- ・観賞用として訪れる利用者に親しまれている生育地である。



水路の両岸に生育するハマボウ

地点104. 袋井市前川

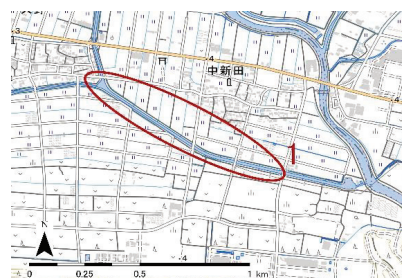
■分布地：袋井市中新田および大野

■確認個体数

自生個体：264      植栽個体：0

■概要

- ・弁財天川から分派し太田川の河口に至る前川に生育している。
- ・分布が確認できたのは、弁財天川との合流部（中新田排水機場）から約800mほどの区間(1)である。
- ・幅 1 m ほどの中水敷には泥が堆積していて、ハマボウは、この中水敷と堤防法面との境界部に列状に生育している。
- ・成木の根元には実生が生育していた。



中水敷と堤防の法面との境界部に生育するハマボウ

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。

付録1. 県内の分布地の状況

(その8)

地点105. 磐田市彷徨川

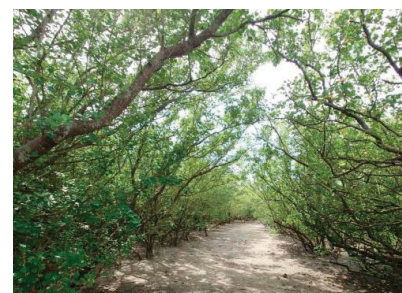
■分布地：磐田市福田および福田中島

■確認個体数

自生個体：1000 植栽個体：0

■概要

- ・太田川の支川である彷徨川に見られる、1000個体以上のハマボウからなる大群落である。
- ・分布が確認できたのは太田川と合流部から上流にかけての両岸(2)で、延長約2.7km、最大幅2,30mにもおよぶ。
- ・彷徨川の両岸とも改修立地であり、ハマボウ等の植物の保全を目的とした中水敷が設けられている。特に、東橋から西橋の区間(1)では船着き場として利用されており、ここには樹高数mほどの立派なハマボウ群落形成されている。成木の根元には実生が生育していた。
- ・個体数が多いうえに面積も広く、改修された立地ではあるが県下でも有数の良好な生育地といえる。
- ・アシハラガニなど、干潟に特有な底生動物も確認された。



中水敷（船着き場）の  
ハマボウ群落

地点106・107. 浜松市 西区村櫛町周辺, 北区三ヶ日町周辺

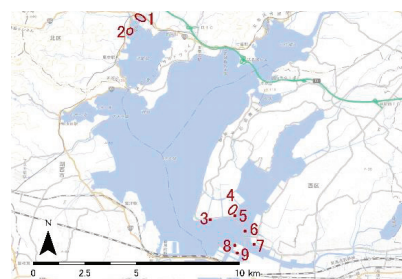
■分布地：浜名湖東岸, 北岸

■確認個体数

自生個体：16 植栽個体：103 (村櫛町周辺)  
自生個体：15 植栽個体：0 (三ヶ日町周辺)

■概要

- ・浜名湖では沿岸部に点々と自生個体が生育している。
- ・生育立地は、整備された公園内の立地（4，5）と、砂泥が堆積した浜辺（1～3，6～9）の2つのタイプに分けられる。
- ・「浜名湖ガーデンパーク（浜名湖えんてつグループ）」には多数のハマボウが植栽されており、利用者に鑑賞され親しまれている。
- ・植えられているのは「湖沼の森」と呼ばれるエリアの道沿いで、湖岸には近いが満潮時にも冠水することのない立地である。
- ・浜辺のタイプでは、ヨシ群落の中に個体数は少ないがハマボウが生育している。



ヨシ群落の中に生育する  
ハマボウ(1)

分布図は地理院地図GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>, 2023.9 参照) を使用し著者らが作成。

## 付録 2. 過去の文献における分布地の記述

通し番号	地点番号	生育場所	文献番号	発行年	記述内容
1	1	下田市赤崎	9	1984	下田（赤崎，ごく稀）
2	2	下田市大賀茂川	2	1962	吉佐美
3			3	1967	吉佐美、海岸の河口の岸に群生
4			6	1971	吉佐美川の川口近くに数10株のハマボウが群生する。
5			7	1981	泥土のある川の両岸約500mにわたってハマボウの密な群落がある。潮の干満によって冠水したり干上がったりする泥土とその後背地の土手状の場所に帯状に発達している。
6			9	1984	吉佐美の大賀茂川口（400株余）
7			10	1985	下田市吉佐美に大きな群落がある。
8			11	2001	下田市吉佐美吉佐美川（大加茂川）。両側500mに渡って群生。樹高4～5m，400本群生、市の天然記念物。
9	3	下田市青野川	1	1892	賀茂郡手石
10			2	1962	竹麻
11			3	1967	竹麻川、海岸の河口の岸に群生
12			9	1984	南伊豆町（青野川口約千株）
13			10	1985	南伊豆町青野川河口（河川改修でなくなった）
14			11	2001	賀茂郡南伊豆町青野川。絶滅、1000株あったと言われる。
15	4	南伊豆町南崎	2	1962	南崎
16			3	1967	南崎、海岸の河口の岸に群生
17	5	西伊豆町安良里	2	1962	安良里（大群）
18			3	1967	安良里、海岸の河口の岸に群生、あやめ岬の大木が数十本群生し見事である。
19			6	1971	内湾に沿ってハマボウの大木が多く群生する。
20			7	1981	賀茂郡賀茂村安良里網屋崎。幅7.5m，長さ130mにわたって広がっている。この群落は樹高5～8m，17～20cmの樹木から成る密生林で、満潮時には、林床に海水が侵入する。
21			9	1984	賀茂（安良里の網屋岬60株）。多く群生。保護を要す
22	6	伊豆市八木沢	10	1985	賀茂村安良里網屋崎に見られる。
23			11	2001	賀茂郡賀茂村安良里網屋岬。60株。長さ130m。樹高5～8m。
24			11	2001	田方郡土肥町八木沢西浜、丸山
25	7	沼津市大瀬崎	2	1962	大瀬岬
26			3	1967	大瀬岬、海岸の河口の岸に群生
27			9	1984	大瀬崎（ごく稀）
28	8	静岡市清水区三保	1	1892	有渡郡三保
29			3	1967	三保の内湾に大群落があったが、アルミ工場の敷地になって絶えた。
30			9	1984	三保（小笠原氏は明治時代に報告。筆者はしばしば観察。工場を作って絶滅）
31			11	2001	三保半島の内湾側に大群落。埋め立てによって絶滅。
32	9	静岡市駿河区久能	9	1984	久能（1か所）
33			11	2001	静岡市
34	10	静岡市駿河区用宗	3	1967	用宗、僅かに見る
35			9	1984	用宗。ごく稀に残存，ほとんど絶滅
36	11	焼津市焼津	3	1967	焼津、僅かに見る
37			9	1984	焼津（2か所）
38			11	2001	焼津市
39	12	焼津市田尻	3	1967	静浜、僅かに見る
40			9	1984	大井川町（田尻）
41			11	2001	志太郡大井川町
42	13	吉田町榛原	11	2001	榛原郡榛原町
43	14	牧之原市相良	8	1983	最近まで相良に自生が知られていたが、港の改修工事で失われた。
44			11	2001	榛原郡相良町相良
45	15	牧之原市地頭方	3	1967	地頭方、海岸に少し
46			8	1983	地頭方、現在ないようである。
47			9	1984	地頭方(杉野氏)
48			11	2001	榛原郡相良町地頭方
49	16	御前崎市御前崎	3	1967	御前崎、海岸に少し
50			5	1969	現在ではほとんどなく、わずかに谷間に残っている。
51			8	1983	御前崎、現在ないようである。
52			9	1984	御前崎（橋本悟朗・絶）
53	17	御前崎市白羽	11	2001	榛原郡御前崎町御前崎
54			3	1967	白羽、海岸に少し
55			8	1983	白羽、現在ないようである。
56			9	1984	旧白羽村
57	18	御前崎市浜岡	11	2001	榛原郡御前崎町白羽
58			3	1967	浜岡、海岸に少し
59			8	1983	浜岡、現在ないようである。
60	19	掛川市弁財天川	8	1983	大須賀町海岸、自生十数株
61			10	1985	大須賀町海岸に見られる。
62			11	2001	小笠原郡大須賀町弁財天川。河口。10数株。
63	20	磐田市太田川	8	1983	福田町の太田川河口、川に沿って両岸100m～200mにわたって大群生。東海地震に備えて防潮堤が建築される計画があり、将来が心配される。
64			9	1984	福田（太田川口，やや多い）
65			10	1985	福田町太田川河口に大きな群落がある。
66			11	2001	磐田郡福田町太田川。河口、右岸100m、左岸200m、200本が群生、大径木が多い。
67	21	磐田市竜洋	3	1967	袖浦、海岸に少し
68			8	1983	袖浦、現在はないようである。
69			3	1967	中田島、海岸に少し
70	22	浜松市馬込川	4	1968	中田島に稀
71			8	1983	中田島、現在ないようである。
72			9	1984	浜松（中田島）
73			10	1985	浜松市馬込川河口に見られる。
74			11	2001	浜松市中田島町馬込川。河口
75	23	浜松市礪島	3	1967	浜名湖の中のつぶて島にもあった
76			9	1984	礪島（橋本氏）。
77	24	不明	11	2001	湖西市

